

# REST TIME

二周年記念?特別増ページ ACT. 17

## NOTICE

※今回の参加・投稿物締切りは10月15日(必着)です。

※来月の会誌より、「エース乗機シリーズ」が開始されます。自分のキャラ(中尉以上に限る)の乗機の「機種 パーソナルマーキング キルマークの数とデザイン 機体色(特別な場合)」について独立した紙に明記して、本部までお送り下さい。一機ずつ選択されて、両軍交代に表紙絵となります。なお、これには爆撃隊のものも含まれます。

### 今月の教育的指導!

特に多キャラで参加の方。サインと捺印が大変なので、為替はできるだけまとめた枚数で送って下さい。あと、仕事とかが忙しくて為替を買う時間がないという方は、切手でも構いません。この場合も料金計算がし易い組合せでお願いします。……ウラ技としては、折ったキャラシートの内側に硬貨をセロテープで固い紙に止めて忍ばせるというテもあります(違法だし、そこまでして参加したいという人もいないとは思うけど)。かなり重くなるので、郵便代に気をつける必要がありますが。

### 第三国の報道

○1944年8月26日の「タイム」: 今月半ばに解放されたパリに、自由フランス政府代表のドゴール氏が入った。また、自由フランス臨時政府は、本日をもってロンドンからパリへ移ることになった。

○同9月半ばの「ニューヨークタイムス」: ホワイトハウスは今月初頭、早々と今次世界大戦の勝利宣言を行なった。ルーズベルト大統領は記者団に対して直接、「フランスはほぼ連合国の手に帰り、中国大陸での日本軍の進撃スピードにも相当な衰えが見られる。二大洋の制海権はともに完全に連合国の掌中にあり、ファシストたちが我々に膝を屈する以外の選択肢を見出せなくなる日はそう遠い未来の話ではなくなった」と語った。

### Q & A

Q: 叙勲ルールを入れてみては?

A: ……これはその時々々の戦果によって、折を見て出していますけれど?一応、スコアは+5が最大、ということにしています。……それともこれは、上下関係を体系化した表を出してほしい、ということでしょうか?そういうことなら……

イザベリア

イエール

海軍殊勲兵士章 +1

空軍殊勲戦功章 +1

海軍荣誉勲章 +2

空軍荣誉勲章 +2

公室旭日龍騎士章 +3

殊勲自由戦士章 +3

公室旭日聖騎士章 +4

議会戦功章 +4

公室旭日白蛇章 +5

議会荣誉勲章 +5

(従五等旭日鶴亀勲章 +4)

(陸軍殊勲戦功章 +1)

イザベリアの従五等は極めつけにくいものです。第一期に出たイエールの勲章は、政変で陸軍のやつ以外価値がなくなっていました。勲章ってエースみたいに、別に「これこれの戦果を上げたらあげる」って性質のものじゃないですからね。これ以上のルールはつくれません。

Q: 撃墜数 Best 5 とかやってみる気ないかな?

A: 単純に撃墜数ってのは月並みですね。……撃墜率コンテストでやってみましょうか? 撃墜数を作戦参加数で割って、その数を競うやつ。

Q: イザベリアとイエールの現在のプレイヤー比率はどのくらいですか。

A: これは結構要望が積もってきたので、今回は正規軍の規模と共に正確な数値を(積尊と高祖に誓って本当です: 菊)各軍の方に載せました。そっち参照して下さい。

▼その昔、「オタク」と同義の単語として、「マニア」という言葉があった。しかし、この両者には決定的な相違点がある。即ち、扱われ方の差異である。▼というのも、「マニア」は一種の敬語表現であり、敬遠されることはあるにせよ決して悪意の表現ではなかったからである。ところが「オタク」はどうであろう。マス・コミュニケーションを介して例の「宮崎勤等による群発幼児殺害事件（「M事件」などとは死んでも言うか）」を契機に大々的に広められた結果、語源はもとより肝心の語義すら不明確なまま、あからさまな差別用語としてもはや一定の社会的地位を占めるに至っている。一度「オタク」のレッテルを張られれば、それはほぼ永久的にその者につきまとうことになるのである。▼「オタク」は異論を許さない狭量な者の集合体である、という定理（決して定義ではない）があるらしい。しかし、「オタクではない集団」もまた同時に、やはり狭量なのである。それは単純な比較で即座に明確となることだ。話を戻せば、「マニア」の類語として「ファン」「愛好者」などという語も存在する。しかし、これらとて接尾語でこそあれ、差別用語ではありえなかったはずだ。▼「オタク」が「マニア」などをごく一部の固有名詞を除いて完全に駆逐し去った原因には、実はその意味内容のあいまいさがある。使われる方はたまったものではないが、使う立場からしてみればこれほど簡易にして確実な語はこれをおいて他にない。まさに軽薄短小ここに極まれりである。この調子で突き進めば、西暦2000年代には確実に「一億総『オタク』オタク」時代に突入していること請け合いだ。▼我々は生活の中に便利を求めすぎている。だからと言って托鉢をしろなどという暴論を打とうとは思わないが、今一つの自制が、何事についても必要だとは思うのだ。

### 公開質問状

Q：こら、三浦！ボング（キャラ名）は俺の守備範囲じゃないか！なんてことをするんだ。お陰で早くも別のネタを探さなけりゃならんじゃないか。（兵庫県・正宗征二）

A：早いもん勝ち！「生き残った奴の勝ちだ」よ。わかった？（スタッフ・宇垣麻美）

※「三浦」は宇垣の本名（氏）です。事実上の「ボング」はWWⅡ中のアメリカのトップエース（40機撃墜）です。ゲームではまだ准尉ですが。

### A — Strike 時代の背景

#### ☆台湾沖航空戦の史実

この戦闘は、正に「情報」が見事に勝敗に反映したものである。実際日本軍は、最初から最後まで粗悪な情報に踊らされ続けた。もっとも米軍としてはこれに続くフィリピン攻略の前の「前菜」であったため、ここでの勝敗はボロ負けでもしない限りどうでもよかったのだが。そしてここで日本軍が勝ったとしても、戦争そのもののすう勢はもはや変えようがなかった。

日本側は10月10日に沖縄がアメリカ海軍機動部隊の空襲を受け、配備してあった航空兵力がほぼ全滅したのを受けて、これを台湾ないしフィリピン沖で迎撃する計画を立てた。アメリカ側はといえば、来るべきフィリピン上陸作戦に先立って、予め日本軍の北方側面の基地である沖縄を無力化する計画であったのだ。日本軍は、そこで陸海共同の特殊航空部隊を編成して、これに備えた。いわゆる「T部隊」である。

12日朝、米軍は遂に台湾を空襲した。戦爆合計1380機弱という大部隊である。日本軍は迎撃に出動した機の実に7割を失う結果となった。この日の昼、今度は本土の基地などからも合わせて、出られる機体がかき集められて、この艦隊を攻撃にかかった。

結果は、半分が帰ってこなかった。

翌13日にも台湾は空襲を受けて夕方には日本側も反撃を行なったが、この時の報告が、後々まで指令部に重大な誤解を与えることになった。二日間で空母10隻、その他多数を撃沈した、としたのである。明らかに誤報で、実際には12日の戦果は皆無、13日も重巡1隻航行不能、正規空母1隻炎上（のち消火）、それだけだった。米軍側はこの重巡をオトリに使った。日本側が米機動部隊を撃滅したものと信じ込んでいるということを知ったのだ。放っておけば向こうで勝手に解釈して、むらがってくる。そこを叩けばよい、と

いうわけだ。……果たして日本軍は、そのわなに見事にはまった。

16日朝、小艦隊まで繰り出した日本軍は、「逃走中の残敵」を攻撃にかかろうとしたとき、はるか東に空母・戦艦・その他多数からなる大機動部隊を発見した。当然司令部は上を下への大騒動になった。潰したはずの艦隊が健在だったのだ。日本軍は重大な誤判断によりやく気がついた。台湾から飛来した部隊は例のオトリー一隻に魚雷一発を当てただけで30機を失った。

この期間を通して米軍が受けた航空機の損害はわずか89機。それに対して日本側は実働230機まで落ちこんだ。この状態で、あくる17日からレイテ湾をめぐる攻防戦になだれ込むことになる。また、この時の航空戦は初めて「わざと」自爆攻撃が行われた戦いでもあり、「そこまでやっても勝てなかった」という事実と共に日本軍の凋落ぶりを象徴する戦闘だった。(文責・菊地)

### Voice of 参加者

☞(前略)ところでイエール軍部の戦略って「連続攻勢戦略」しかとっていないようですね。理由でもあるんですか？(連続攻勢って息切れするまでは派手な戦果が続くけど、一度息切れすると坂道を転がるように……となるからなあ)敵が攻めてくるのは前月の結果でわかってたんだから、「全力で後方整備と迎撃と、補給線整備」っていう手もあったはずなのに。(いわゆる「後の先」)

「攻めて攻めて、限界を超えて攻めまくる」のは旧日本軍だけで充分ですよ。(以下略)

(イエール・福島県・森田欽也)

宇垣参謀：……イエールがああいう戦略をとらざるをえなかったのは、ズバリ「戦力に余裕がないから」です。じゃ攻めなきゃいいんだけど、それだとゲームがつまらないしね。

☞今回は掃討戦ということなので、我が隊も傭兵を大量投入する事にした。本来なら、死亡者がでることはないのだが、おそらく敵軍の巻き返しを受けて(マスターの気まぐれで)半数は生還出来ないのではなからうかと思う。敵機の数わからないが、こちらも数をそろえた方が無難と判断したため、このような結果となった。[11機参加]

やはり、ここいらで一度敵を徹底的に叩き潰しておくべきでは。「前期勝ったから今回はいいだろう」などというアマイ言葉を言うつもりはない、前期同様、今回も我々が勝利するのだ！軍上層部にはそのつもりで強く動いてもらいたい。

(イザベリア・神奈川県・遠藤誠)

③ [ ] は編註です。イエールは予備兵力無視で調子に乗ってミンダナオ全土の占領をもくろんだのが失敗でしたね。……こういう自軍鼓吹の投書は大歓迎！皆さんもどうぞ。

※今後本コーナーは、私信の中から手あたり次第に使わせてもらいます。覚悟して下さい。

### PBM互助会

今回は、武藤均氏の「カウンター・ストライク」を。私が知っている人の間では、もっとも人気の高いところです。……などと言いつつ、私はつい最近までやってなかったりする。わっはっは。(笑って済む問題か?)

要するに現代空戦PBMで、今までのと同じようにFTの発展型です。機体を選んで、キャラ乗せて、武器を選んで作戦に従事させる。これだけです。……ただここは、リプレイと会誌は確かに高品質なのですが、一サイクルがだいぶ長く、不安定であるという問題を抱えています。気の長い人でないと、とても続かないでしょう。私は梅雨時ごろ最初の参加用紙を出したのですが、この結果誌が8月末になってようやく出るという始末です。更に加え、ここはスタッフがみんな近く就職するという事情を抱えています。多分今年度一杯のはずです。一応、連絡先を挙げますと、

様です。

うーん、「団長」が部活の先輩なので、いずれにしても極端な事が書けないのが痛い。  
(これでもかなり書いた方と思うが。あな恐ろしや)好きな人は試してみる価値はあるかなと思います。…初心者向きでないのは事実ですね。

### 「Blowers」関係の告知

10月頭ごろに、第3号(通巻4号)が出るかも知れません。予価300円、郵便代(175円)別です。

※業務連絡。業務連絡。第4号の原稿締め切りは10月20日です。

### 営 利 企 画

ええと、予告通り横田に行ってきました。来てくれたのは、小西さん、野口さん、水野谷さん、武藤さんの計4人でした。んで、そこで撮った写真をまたお分けいたします。(ヘタですけどね)各セット5枚組み200円です。ご希望のセット記号を明記して、小為替で送金下さい。郵便代は通常+35円になります。

Aセット 米軍F-15 F-16 A-10 AV-8B B-52  
Bセット 米軍C-130 C-5 C-141 KC-135 KC-10  
Cセット 自衛隊F-15 F-1 T-2 T-33 P-3  
Dセット 米軍C-9 UH-1 UH-60 自衛隊AH-1 MU-2

### 空技廠住民投票

最近、「参加者はPN不可なのにスタッフは使ってるじゃないか(ASのキャラ欄)」という意見が出始めています。私としては親藩譜代外様、定期客船の一等二等三等みたいな感覚で、そのくらいの区別はあってもいいと考えています。それにスタッフ連は他のところ、例えばBlowなんかでも持っていればPNを使うケースが多いですから、便宜上もその方がいいと思うのですが…。ただしこのスタッフのPN使用は義務ではなく、各人の判断に一任しています。実際に「親藩」の中でも、第一期でイエールのマスターだった正宗は、実名のままでした。その後野に下って、BlowではPNを使いましたが。

しかしながらこういう意見がでてきたからには、まだ同意見の方がいるものと思われる。そこで、この件に関して一人一票で住民投票にかけてみます。「スタッフのPN使用に賛成か反対か」、どちらなのかを何かの紙切れにでも書いて(余裕があるなら、できれば理由も)今度の参加のときに送って下さい。…この投票は、一応**義務**です。勿論秘密投票です。結果については次回、数値と我々の選択のみ発表します。

※なおASないしBlowで何か定期の原稿を担当している人は、(今後の連載が決定している人も含む)今回は投票権がありません。

### ☆大佐用上級ルールについて

現在、大佐の上に上級大佐を設け、一人につき4機前後のNPC部隊を指揮させるという案でまとまりつつあります。ご意見ご要望のある方は今のうちですよ。

### 編 C 後記

菊：さーて。図書館のバイト再開。4時間のあいだカウンターでただ莫として座っているというのは、ある意味で「お山」の坐禅よりきついことかも知れない。

岬：結局休みが終るぎりぎりになって、正宗は帰ってきた。向こうでは相変わらず竹刀の素振りを欠かささんらしい。…「**三重名物**」(う！：菊)赤福はうまかったぞよ。

香：セーちゃんと、「サイレント」見てきました。あの下まつ毛が動く感動！ボーグマン以来でした。スクリーンって、やっぱりいいですね！

宇：…実は9/1に横田へ行ったりします。生まれて初めてモノホンのB-52にペタペタ触って、感動で涙ぐみながらあれこれカタコトで質問して、脇にいたクルーチーフの大尉さんを困らせてしまったのでした。

# 榛名とはるな

本居こじ・作

ACT. 6 The Recovery. (Sec. 4)

迫り来るミサイルを示す8つの輝点が点滅しながら、自艦を示す中央の点に寄ってきていた。

まだ、もう少し引き付けてから——山城は念じた。「大雪丸」を含んで他の艦はシースパローを備えていない今、自分がどれだけのミサイルを落とせるかが鍵になっている。DEはすべて「あやせ」級で、ファランクスもない。後部40mm機関砲は何かの足しにはなるかもしれないが、それとて2発以上はアウトである。前部3.5in砲は発射速度が遅すぎてアテにならない。「大雪丸」の個艦防御システムは無数の機関砲で文字通りの弾幕を張るものだが射界が狭く、おまけに弾切れが早かった。第一、12.7mm弾では今のミサイルにはそう通用しない。結局気休め程度に思われた。

———今だ！

彼女は躊躇なくボタンを押した。対空ミサイルの第一弾が、ランチャーから放たれた。

「ガルシア」級フリゲート艦「パーソンズ」の後部5in単装砲を、二発のロケット弾が正確に根元から吹き飛ばした。たちまち大爆発が起こる。S-2がその上を突き抜けた途端、「パーソンズ」は居住区画を放出した。他の艦からも弾は注ぎ込まれているのだが、ちょこまかと450km/時で動き回るS-2にはなかなか当たらない。至近弾が機体を揺さぶってはいるのだが、それも操縦者には何の影響もないようだった。———新たな爆発が起こった。もう一隻のフリゲート艦のアスロック・ランチャーにロケット弾が命中したのだ。艦体は二つに裂け、「パーソンズ」同様あっけなく居住区画が放出された。

S-2は一度そのまま艦隊の左翼へ抜けて高度をとると、今度は大きく回り込んで正面から左翼の駆逐艦を潰しにかかった。

「何でもいい、水柱を立てろ！」伊達が無線で怒鳴る。「そいつでぶちのめすんだ！」

敵のミサイルは4発まで減っていた。一方、手持ちのシースパローはあと一発。予備の弾はない。7発4中———6割弱の命中率だから悪い結果ではなかったが、あと一発でゲームオーバーだった。山城の眉間が詰まり、額には脂汗が流れはじめた。

———失敗は許されない。

ロックオンしたことを示す赤ランプが点り、彼女は発射スイッチを弾いた。最後の対空ミサイルが発射される。レーダースクリーンに輝点が一つ増えた。その点は別の4つの点へ進み、———やがてすれ違ふと×印になった。依然目標は4つのままである。

「迎撃失敗！4発来る！」

山城は金切り声を上げた。間髪を入れずに「セブンスター」の12.7cm単装砲がミサイルの来る方へ向かって撃ちはじめた。他のDEがそれに倣って3.5in連装砲で弾幕を張り出した。「大雪丸」船橋にたっていた榛名の脳裏に、「さらしな」撃沈時のショックが鮮烈に甦る。

遠くに一つ閃光が現われ、そしてすぐに消えた。

「———一発撃破！」南雲が告げる。「到達まであと2分！」

「チャフを散布！取舵一杯！」緊張で榛名の声は裏返りがちになった。「各艦、艦長の判断で回避行動！」

ミサイルの曳く白煙がはっきりと見えはじめた。事ここに至り、それぞれの乗員は完全に浮き足だった。「ちくご」型海自DE「シーバス・リーガル」が25ノットの全速で、取舵をとりながら加速中の「セブンスター」の左舷、ハーブーンのランチャーがあるあたりに追突した。「シーバス・リーガル」の操船係が取舵を面舵に取り違えたために起こった事故である。対艦ミサイルの一発目が、艦隊前方右翼に位置していた「フォアローゼス」のメインマストの根元、つまり艦橋後部を直撃した。回避行動はとっていたのだが、回頭

する間隔が余りに短すぎ、結局行き足が落ちるだけの意味のないことになってしまったのだ。……すぐに「フォアローゼス」の居住区画が放出される。その光景を目のあたりにした榛名は、軽い立ち眩みを覚えた。残る二発のうち一発を、直後に「セブンスター」のファランクスが仕留める。そして、最後の一発が、——真正面から「大雪丸」を襲ってきた。

「あと一分！」

南雲がカウントダウンした刹那、その最後のハーブーンを狙いはじめた「セブンスター」のファランクスが一度沈黙し、奇妙な形に膨張した後で轟音と共に吹き飛んだ。

「何だってんだ！」

衝突の際に右舷の壁にもろに叩き付けられて唇を噛み切り、出た血を手で拭っていた宇垣はヒスを起こしかけた。

「さっきの事故でファランクスの弾庫がイカれて……」山城は静かに説明した。「今、暴発したのよ……消火はしてるけど、いつまでもつか。どっちにしてももう使えないわね」

「速度は!?」宇垣は血で塩味になった唇をなめると尋ねた。「マックス——31ノットは出るか？」

「25ノットまでです——それ以上だと舵が!——舵が飛んじゃいます!!」

冷や汗を感じながら操船係が即答する。

「オシ、このまま突っ込む！」宇垣は自分の机から木製の黒板用三角定規を取り出した。

「クソつたれ、ふん捕まえて簧巻にして、相模湾の糞のタンにしてやる！」

自分の船の真正面に突進してくる対艦ミサイルに、榛名は追いつめられたと錯覚した。そしてそのまま思考が硬直した。今は取舵から面舵に移る最中である。まだ船首は右に向いていないが、だからといって取舵に直すわけにもいかない。余計回頭に時間を浪費するからだ。また、「大雪丸」のCIWSは舷側のごく限られたエリアへしか撃てない。それだけならまだしも、この船のCIWSは弾倉の関係で一連射10秒弱しかもたない。自動交換で新しい弾倉がセットされるまでに更に10秒を要する。タイミングを計るのには慎重を要した。

——そして、榛名はその重圧に耐え切れなかった。失神し、その場に引っくり返った。船橋内に動揺が走り、南雲が毅然と立ち上がる。半分以上は虚勢だったが、それでもその効果は計り知れない。

「真理、榛名を！」

彼女は後ろで傍観していたハリアーのパイロットに榛名を任せると、即座に船長代行の責をこなしはじめた。

「面舵一っ杯ッ！左舷機関全速前進、右舷機関全速後進、……フル・ピッチっ！」

よろよろと「大雪丸」が船首を回頭しはじめる。しかし商船の悲しい性、どうあがいても動きが鈍い。船体がミサイルに対して横つ面を向けるまでの十数秒が、彼女たちにとっては永遠と思われるほど長く感じられた。……しかし、南雲は耐えた。

他の艦は流れ弾を恐れ、弾幕を張れなくなった。見守るもの、「大雪丸」船内のもの、そしてレーダーでミサイルを追尾する男子部のものたちの血圧が倍増していく。

「全員、耐ショック姿勢！」南雲は船内放送でまくし立てた。

「今だ！」

彼女がコンソールのスイッチを張り飛ばすと、左舷で機銃弾の立てる水煙が巻き起こった。発射音が船橋に伝わり、床に座りこんで後ろから榛名を抱き止めている阿蘇の腕にも力がこもる。残弾計があつという間に一桁になった。

ミサイルが弾丸の壁へ突っ込んだ瞬間、弾は跡絶えた。

南雲は机をつかんだままで立ちつくしている。

ミサイルは、命中寸前に爆発した。

あおりで船体が大きくかしく。阿蘇は榛名を抱いたまま、床を飛んで右舷に嫌と言うほど叩き付けられた。——船体は大したダメージを負わなかった。

「助かったか……」

宇垣は胸をなで降ろした。

TARPS偵察ポッドを装着したF-14A+は、レーダーに迎撃機4機を捉えた。後席のオペレーターが泣きそうな悲鳴を上げる前に、彼は機首下面の望遠カメラを入れた。モニターに映ったものは、楔形編隊のF-15である。

「モテる男は辛いよなあ」

彼はうそぶきながら、低空に降下した。女子部の主港が見えている。目標は目前だった。

「今、何時だ？」

「よ、4時45分です！」

「ナイスだ」

柴田はニヤリとなると、アフターバーナーに点火した。

「単機で突っ込んで来る……？」スパローとサイドワインダーを満載して迎撃に飛び立った、はるなの僚機の霧島はいぶかしんだ。まさか、いくらF-14って……？

はるなや扶桑も五十歩百歩のところだったが、長門の考えはもう少し進んでいた。

「このコース……」彼女はレーダー上での輝点の動きを考えていた。「……まさか……」

ある程度まとまりかけた考えは、しかし、そこで止まらざるを得なかった。目標を視認したのである。

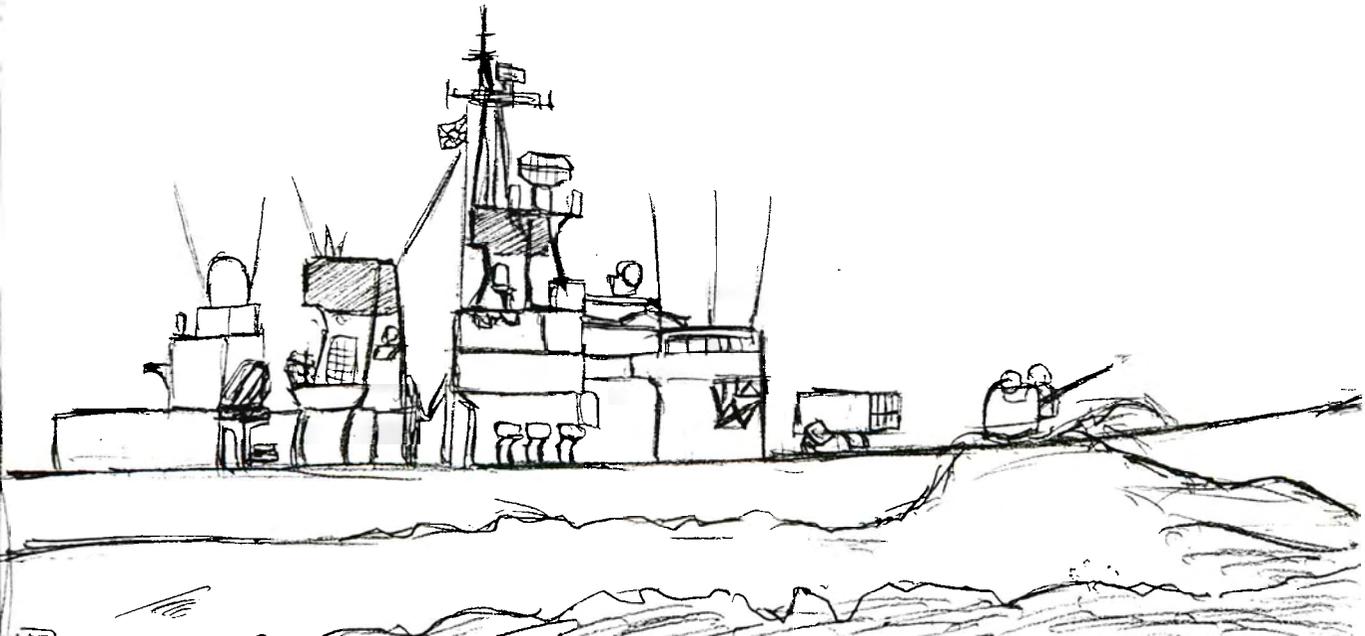
「行くよ！」

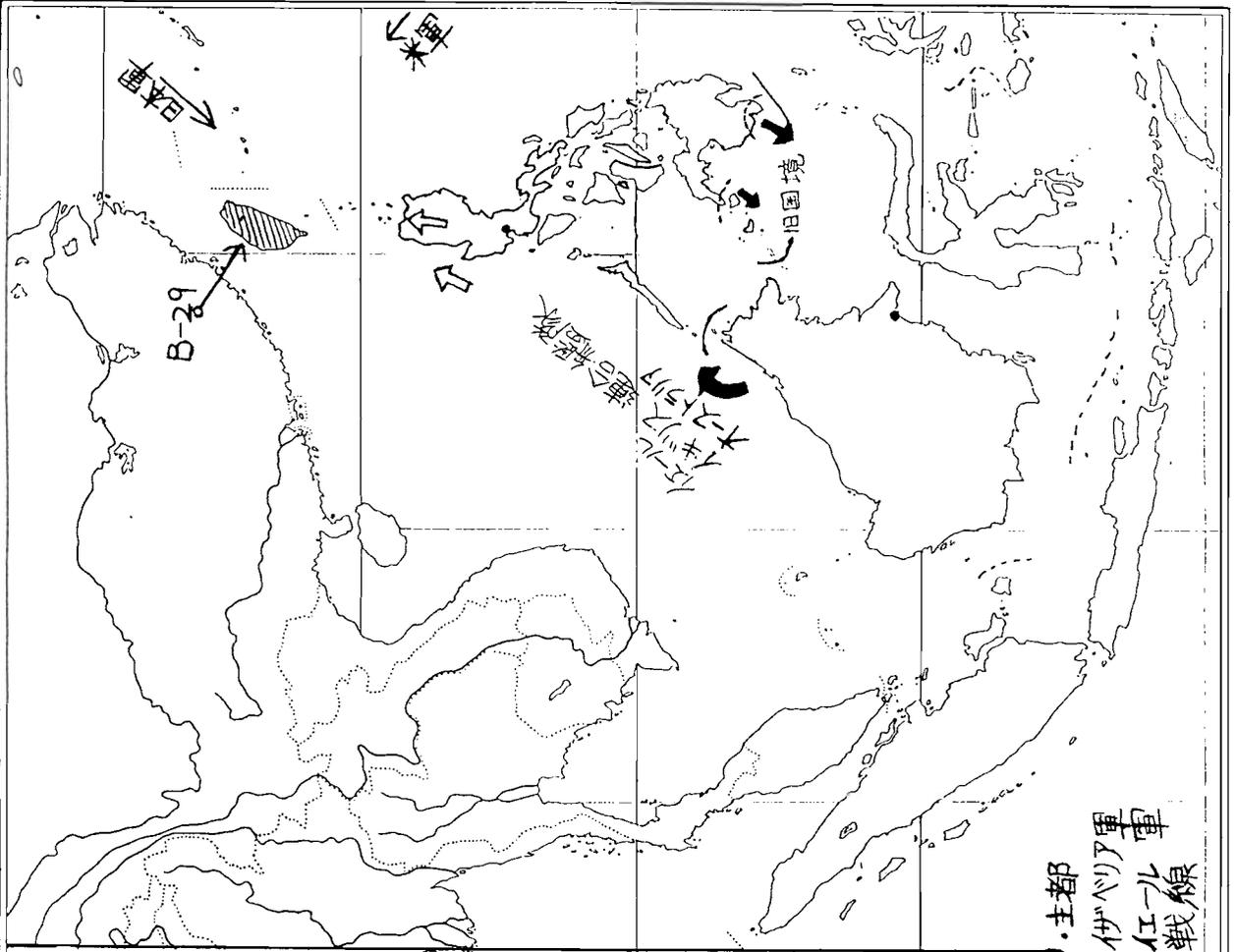
声をかけ、はるなは操縦桿をなぎ倒し、ペダルを蹴飛ばした。

永野はいらついていた。攻撃コースに入れないのだ。水柱は侮れない。下から突き上げられるにせよ、中に突入するにせよ、もみくちゃにされて一発で撃墜されるのは日を見るよりも明らかだ。弾は爆弾倉に二つ、そして2発のロケットが翼のパイロンに残っていた。1隻のCGと2隻のDDはまだ健在である。彼らは今敵が来ないうちにと、撃沈されたFFの居住区画の回収を行っていた。攻撃コースに入るなら今のうちだが、狙ったところで回収作業中の船には弾を発射できないようになっている。それに、もう榛名たちの艦隊が砲戦射程内に敵をおさめているはずだった。ここは上昇して観測に徹した方がいいかも知れない。——しかし、結局もう一隻くらい、との考えに落ち着いた。来るとすればまず間違いなく宇垣のハーブーンからだろうが、百発百中というわけにはいかない。かかる負担は少ない方がいい。

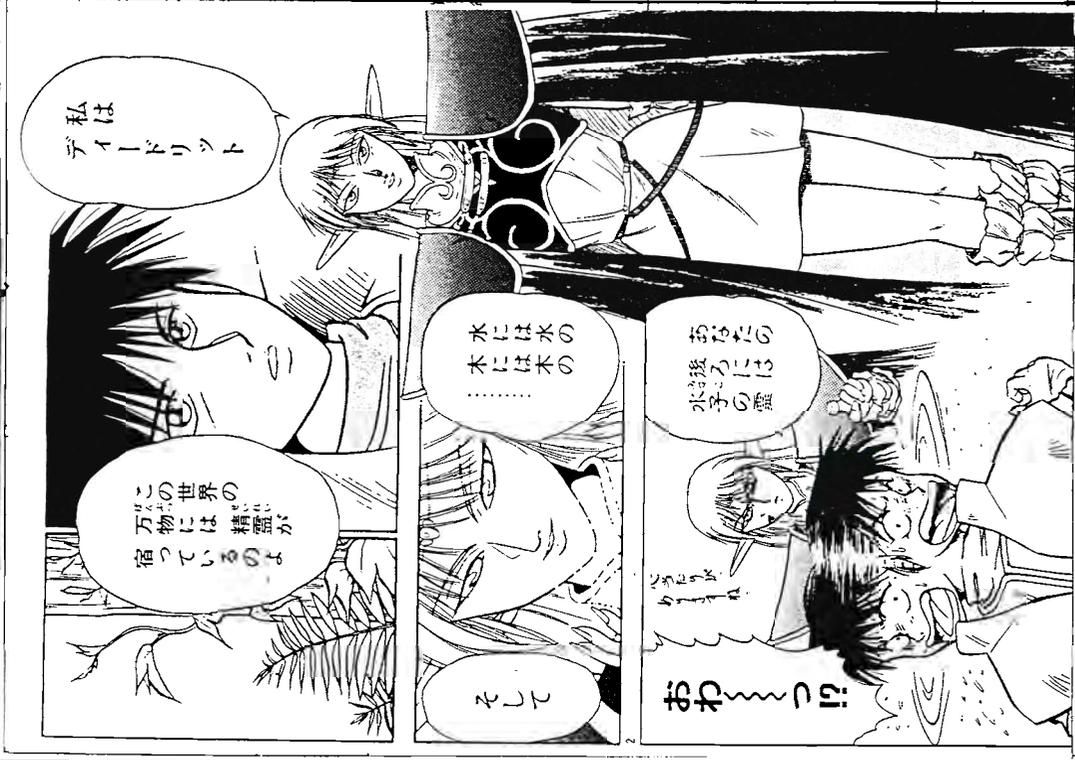
(ACT. 6 続)

画：井上 拓軌 氏





主都  
 ⇨ イヴァリア軍  
 ⇨ エール  
 --- 戦線



私は  
 デイドリット

この世界の  
 万物には精霊が  
 宿っているのよ

水には水の  
 木には木の  
 ……

そして

あなたの  
 水は  
 子には  
 の霊は

おわ〜っ!!

デイドのファンに捧げます。  
 どこからコピーしたかはヒミツ!  
 777

0 500km